

徳島ガラススタジオの今後の方向性について

1 現状

(1) 講座受講者等の減少、及び受講生の固定化

これまで、ガラス工芸講座に加え、ふれあい健康館での「ガラスアートフェスタ」や小学校での「アウトリーチ事業」、「Kids Glass Art Day」として、ガラススタジオでの子どもたちを対象としたガラス体験講座、コミュニティセンターでの徳島ガラススタジオまつりといった各種イベントなど様々な事業を展開し、ガラス文化の普及を図るとともに、底辺拡大や利用者の増加につながるよう取り組んできた。

しかし、入館者は近年で最も多かった平成21年度に約11,000人だったが、令和5年度には約6,800人と、約4,000人減少しており、講座受講者も近年で最も多かった平成27年度が延べ約4,400人だったのに対し、令和5年度には約3,400人と約1,000人減少しているなど、講座受講者や入館者数の減少が著しく、講座受講者の固定化もみられる。

また、徳島市内にガラス産業や関連する企業がほとんどないなどガラス文化の普及や産業化につながっていない。

(2) 維持管理コスト

徳島ガラススタジオに係る経費として、近年のガラススタジオの運営費は年間約3,000万円であり、そのうちの約1,300万円を講座受講料等の徳島ガラススタジオの収入で賄い、約1,700万円を市の指定管理料で賄っている状況であり、それに加え、施設修繕費などの維持管理コストがかかっている。

(3) 施設の老朽化に伴う修繕

平成元年の開館から36年が経過しており、施設や設備の老朽化により令和10年度から令和15年度までの間に4,000万円を超える多額の施設修繕費等が見込まれる。

2 今後の方向性

厳しい市の財政状況が続くなか、このような多くの課題があることから、検討会議において委員の専門的な立場からいただいたご意見や、施設及び設備の老朽化の状況等をふまえ、今後、市において徳島ガラススタジオのあり方を検討したうえで、最終的な方向性を判断していく。